

## 解答

- 問一 ア 湿氣 イ 感触 ウ 見当 エ 潜（んで） オ 残酷  
 問二 死に損ねた  
 問三 農薬を使ってないのに、虫の被害もなく、見事な枝を張り、葉を茂らせていましたから。  
 問四 バクテリアや菌が生きている土だということ。  
 問五 ウ  
 問六 （一）オ  
 （2）木の上の部分ではなく、根っこ部分に注目すべきと気づいたこと。  
 問七 自分一人で生きているのではなく、周りの自然の中で生かされている  
 問八 浅はかな人間の知恵  
 問九 イ

- 問一 ア おさななじ（み） イ いんきょ ウ やぎ エ ほそおもて オ しょうぎ  
 問二 A ウ B ア C オ  
 問三 ウ  
 問四 ウ  
 問五 理解できた・納得できた（など）  
 問六 ア  
 問七 ウ  
 問八 ウ  
 問九 ウ

ア 栄吉は大店の若だんなである一太郎は仕事をしなくともすむとうりやましがつてているが、一太郎は仕事をろくにさせてもらえずにいる自分のことを情けないと思っているから。

ウ 失望・落胆（など）

イ 菓子作りの修業を続けたところで上達する見込みがない栄吉の、家業を継いでやつていけるかどうかわからぬという状態。

ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ×

## 二 解説

問七

「ドングリの木もそれだけで生きているのではない。周りの自然の中で生かされている生き物だ」と気づいたことが述べられています。人間もそうであることを感じた筆者の考えをまとめて答えましょう。

- 二 問六 続く文章で、病弱な一太郎の、仕事をさせてもらえず「何もできない幼子のような気分になつてたまらない」という事情が述べられています。栄吉と一太郎の境遇と仕事に対する思いのちがいを読み取り、説明しましよう。